

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和元年 1 1 月分）

【製造業】好調な業績の一方、不調を示す企業も徐々に増加

- 製造業は、鉱工業生産指数で化学工業をはじめ多くの産業で前月比上昇した。ヒアリングにおいては、好調な受注を継続しているとの声も聞かれたが、輸送用機械、生産用機械を中心に、海外の経済動向を主因として、売上の減少や受注環境の後退等といった声が徐々に聞かれるようになっている。

【地場産業】厳しい状況が継続している

- 地場産業は、鉱工業生産指数で木材・木製品や窯業・土石等が前月比で上昇したが、パルプ・紙や家具は低下した。ヒアリングにおいては、これまで同様、市場の悪化や原材料費、人件費等の高騰に対する懸念の声が聞かれた。

【設備投資】落ち込みが長期化している

- 設備投資は、工作機械受注額について、国内向けは 1 1 ヶ月連続、海外向けは 1 2 ヶ月連続で前年同月を下回っている。ヒアリングにおいては、新規の投資や人手不足に対応した省人化への投資を実施したとの声もあれば、投資を抑制するとの声もあった。

【個人消費】一部に消費増税の反動が見られる

- 個人消費は、小売店の 1 0 月の販売額については、消費増税に伴う駆け込み需要の反動減により家電大型専門店やホームセンター等で前年同月比で大幅に減少した。ヒアリングにおいても、高額商品に消費増税の影響が大きいとの声が聞かれた。

【観光】観光客数、宿泊客数ともに前年同月を下回った

- 観光は、前年と比較し、休日の日数が 1 日多かったものの、1 ヶ月を通して降雨日が多く、天候に恵まれなかったため、観光客数、宿泊客数ともに前年同月を下回った。

【資金繰り】資金繰り環境に変化はないが、外部要因による影響が懸念される

- 企業の資金繰りは、借入環境に変化は見られない。一方で、金融機関としては、消費増税の影響をはじめ、為替動向、外部環境による企業への影響等を注視している。

【雇用】人手不足の状態が慢性化しているが、一部に解消の兆しもある

- 雇用面は、有効求人倍率等の関連指標は下降傾向にあるものの、依然として人手不足は慢性化した状態と言える。一方、ヒアリングにおいては、受注量の落ち着きを主因として、人手不足感が薄まってきてはいるとの声も聞かれる。

【景気動向】

- 景気動向指数（一致指数）は 4 ヶ月連続で低下し、中小企業における景況感も 3 ヶ月ぶりに低下した。